

項目	評価・意見	学校の対応等	評定
基準1 教育理念・目的・育成人材像	理念達成のために取り組んだことについて	<p>中長期計画で策定した理念や目的、育成人材像等を基本にして、業界と連携し 今後も学校運営を行う。</p> <p>ポリモーダ校を中心に海外校との取り組み深耕。海外への留学生派遣の支援。</p> <p>海外でのファッションコンテストへの積極出展。多彩な企業コラボレーションの継続展開。</p> <p>産地を含むインターンシップ受入れ先の開拓。3Dモデリスト、SNSマーケティングや AI などのDX教育を今後も強化。</p> <p>中長期計画の戦略としてグローバル戦略・DX教育の推進・インキュベーション推進およびSDGsを取り組むべき重点テーマとして取り組んだ。</p>	4
基準2 学校運営	中長期計画に基づいた学校運営の進捗状況についての説明	<p>グローバル戦略</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・韓国ピョンテク大学、ソウルファッションハブとMOU 締結。</li> <li>・香港よりYouth College来訪。</li> <li>・卒業作品発表会にポリモーダ校の学長 Massimiliano Giornetti 氏が来日し、作品審査を実施、関係を強化。</li> </ul> <p>その他</p> <p>DX 教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ファッションクリエイター学科3D モデリストコースがマツオインターナショナルとコラボ。</li> <li>・AI ビジネス活用の推進として河合拓氏による「ファッションの DX 化」等の特別講義を継続。</li> </ul> <p>インキュベーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インキュベーションに繋ぐための卒業生活動の可視化。月次で卒業生の声を掲載し、OIFer LINK から発信。</li> </ul> <p>SDGs</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施した企業との各コラボにおいて課題の一つとして取り入れる。</li> </ul>	4
基準3 教育活動	職業教育の実効を引き出すため、学科の特性に応じて、進めている企業との連携事業についての説明	<p>産学協同事業、主な取り組み</p> <p>各産地との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高野口：紀州繊維パイル織物・ニット</li> <li>・西脇市：播州織</li> <li>・岐阜羽島・一宮：尾州毛織</li> </ul> <p>阪急うめだ本店</p> <p>With Good Harmony 藍染企画(うめはん BLUE SEA)。</p> <p>藍染体験ツアーの実施後、阪急百貨店うめだ本店で藍染商品を販売。</p> <p>株式会社ジュン</p> <p>メンズブランド「ジュンレッド」とスーパーデザイナー学科学生が協業で商品をデザイン・制作し、直営店とオンラインサイトで販売。</p> <p>HEP FIVE</p> <p>ブランドマネージメント学科3年生が、9月 16 日より 3 カ月間の長期運営ショップをオープン。</p> <p>その他、年間で28件の企業コラボを実施。</p>	4

<p>基準4 学修成果</p>	<p>就職状況について</p> <p>資格検定対策</p>	<p>就職内定率は昨年より向上した。 ファッション業界の求人数はコロナ前より増加し、安定傾向で求人率・求人数は市場では着実に続伸している。 しかしながらこの状況はコロナ禍のリバウンドもあり楽観視は出来ない。 企画系は特色のある産地産業、縫製工場、ドレス系、セレクト系などで新たな採用につながった。 ST 学科は給与面の課題はありながら登録型が減少し個人のアシスタントについての学生が増加した。</p> <p>資格検定対策のため、外部から講師を採用し、傾向と対策講義を実施。 2021年度よりファッションクリエイター学科に「3Dモデリスト」を新設。それに伴い「3Dモデリスト検定」を導入。毎年合格者を輩出している。 パーソナルカラー実務検定(3級)、骨格診断アドバイザー検定(3級)を新たに実施。</p>	<p>4</p>
<p>基準5 学生支援</p>	<p>現状の学生支援について</p>	<p>退学防止策 1年生の退学者が多いことを踏まえて、入学式後の学生支援者会(保護者会)にて当校の対策説明と保護者への協力を依頼。 &lt;予防&gt; ・退学者防止プロジェクトによる反省と改善実行。 ・クラス担当教員を必ず配置。 &lt;制度・福利厚生&gt; ・リスタート制度及び 進級不可時の転科制度。 ・教員による随時補習体制。 ・専門家(臨床心理士)によるカウンセリング。 ・休学制度の費用負担軽減。 卒業生の支援 OIFer LINKを活用し、インキュベーションに繋ぐための卒業生活動の可視化。 活動活性化のためのイベント実施(東京同窓会)。</p>	<p>3</p>
<p>基準6 教育環境</p>	<p>学内レノベーションその他</p>	<p>2022年度に引き続き学内レノベーションを実施。 ・OIFerカフェ:ウォーターサーバーの無償利用 ・E21ショップ教室 ・E32すみれホール その他 ・キッチンカーによる飲食サービスの導入</p>	<p>4</p>
<p>基準7 学生募集と受入れ</p>	<p>学生募集についての取り組み</p>	<p>18歳人口の減少などの影響もあり、学生募集は厳しい状況。 オープンキャンパスへの「来校者」は増加傾向にあり、中でもC系において「他校との違い」をアピールして、競合他校から獲得することを特に意識する。 各学科の強みを感じてもらおうよう「体験プログラムの再検討」をする。 例えば店舗ディスプレイ体験、パーソナル診断体験、卒業生のインフルエンサーに来校してもらってトークをしたり、OCの魅力を高め、来校者をキャッチ。 各高校との関係性も再強化し、連携授業も拡大していく。</p>	<p>3</p>

<p>基準8 財務</p>	<p>財政面での状況について</p>	<p>2023年度は学内のレノベなど投資を意図的に集中させたため赤字決算となった。 2024年度の予算も学生数の減少により収入減となるが、諸々の費用を削減し赤字幅を圧縮した予算となる。 ただし、現金預金および保有する有価証券など十分な内部留保があり、無借金経営で土地建物もあるので財務的には健全、優良な状態。 財務的には、従来通り健全経営を維持しながらも教育環境の整備、入学者数の確保のための投資は積極策を継続する。 また、デジタル化による費用対効果の改善に取り組み、固定費を含めた無駄のない経営を目指す。</p>	<p>4</p>
<p>基準9 法令等の順守</p>	<p>法令や専修学校設置基準等を順守し、適正に学校を運営。 個人情報保護に関する対策。</p>	<p>文部科学省「教育情報セキュリティポリシーに関するガイドライン」に基づき、学園業務上において意識が必要な対策項目を「情報セキュリティ管理規程」として制定。今後も適切な個人情報の保護に取り組んでいく。</p>	<p>4</p>
<p>基準10 社会貢献 地域貢献</p>	<p>社会貢献・地域貢献への取り組みについて</p>	<p>障がいがある人が抱えるおしゃれの悩み・課題を理解し、“リデザインする”「コオク塾」に参加。 社会福祉法人 大阪重症心身障害児者を支える会が主催するイベントに参加。障害者の「服装の困りごと」を解決すべく、学生、企業、重症心身障がい者の方(当事者)がタッグを組んで、共に洋服のリメイク方法等を考え、社会に発信していく活動を実施した。 夏フェス、春フェスに「三国地域活動協議会」に協力を依頼して地域住民をファッションショーへ招待した。 三国商店街との連携も進めていく。</p>	<p>4</p>